

「学生による授業評価」のまとめ 2005年度春学期
刊行にあたって

南山大学ファカルティ・ディベロップメント委員会
委員長 宇田 光

春学期の学生による授業評価（以下単に授業評価）は、2005年6月から7月にかけて実施されました。まずは、ご協力いただいた学生のみなさんと先生方に、厚く御礼申し上げます。

授業評価が本学で開始されたのは、1999年秋学期でした。それ以降科目を、「講義」、「語学」、「演習・その他」の3種別に分けて、年度・学期ごとに1種別を対象として実施してきました。近年では、2002年に演習・その他、2003年に語学、2004年に講義科目が対象となりました。そして今年度は、種別にかかわらず専任・非常勤にかかわらず1教員1科目を選んで実施する、という新方式が採用されました。この変更にともない、各種別に共通で利用できるように、設問の表現も変わっています。今回も昨年度と同様、ほぼ100%の実施率を達成することができました。

本年にはいり、本学のFD活動も、いよいよ公式に本格的な段階にはいりました。自己点検・評価委員会のもと、FD委員会が正式に発足して、7月にその第一回会議が開催されました。筆者はその委員長をお引き受けし、同時にこの「刊行にあたって」の執筆を自己点検・評価委員会委員長から引き継ぐかたちとなりました。

今後は授業評価の実施方針の検討、結果の分析などを、FD委員会が担当することになります。教員一人ひとりが学生のみなさんの声に耳を傾けながら、常により良い授業を求めていく。こうした姿勢を忘れずに努力を重ねていくことが、今後も不可欠です。趣旨をご理解いただきまして、引き続き学生のみなさんと先生方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今回の授業評価の概要

今年度春学期は、全教員それぞれの担当科目のうち一科目が選ばれ、実施されました。両キャンパス総計で530科目が対象となりました。

質問紙 A4版両面印刷のマークシートを使用しました。表面はフェイスシート項目（性別、学年、キャンパス、年度、開講期、科目名、科目コード）および設問19項目（iiiページを参照）。3種別どの科目にも共通で利用できるように、昨年度までのものとは文章が変更されています。たとえば、12番の設問は従来、「教科書、板書、配付資料、視聴覚教材などは効果的でしたか」となっていました。今回は「教科書、板書、配付資料、視聴覚教材、課題、実技などは・・・」となっています。なお、設問1から4までは、従来通り学生の授業参加（出席、予習復習など）を問う内容です。設問以降とは性質が異なりますので、平均値は分けて算出し

ています。

これら19の設問に対して、次の5段階評定尺度を用いて評定してもらいました。「はい(5点)」、「どちらかと言えばはい(4点)」、「どちらとも言えない(3点)」、「どちらかと言えばいいえ(2点)」、「いいえ(1点)」。(なお便宜上、集計結果は、「各設問に対する評定値の算術平均」で表現しています。)

また、裏面は、次のa～dに関して問う自由記述欄となっています。

自由記述欄(授業に対する感想や意見)

- a この授業の良かった点、評価できることは何ですか。
- b この授業の改善すべき点があればできるだけ具体的に書いてください。できれば改善策もお願いします。
- c 授業環境(照明、空調、机・椅子、視聴覚機器、外の雑音など)についてコメントがあれば、使用教室を明記の上、書いてください。
- d その他、この調査票や、学生による授業評価の方法などをふくめて、コメントがあれば書いてください。

実施・回収手順 公平性・匿名性の観点から、教員は受講生の代表に実施を依頼。その代表者が回収し、まとめて事務担当部署に提出しました。

作業手順 2005年6・7月実施 集計作業 教員へ集計結果を通知(7月)
教員から報告書提出(8・9月) FD委員会で結果の分析・検討(10月)
「まとめ」報告書の執筆・発行(11月)

過去の授業評価「まとめ」について

授業評価の結果は毎回、「学生による授業評価のまとめ」(評価報告書、以下単に「まとめ」)冊子に記載されて、各教員に配布されています。また、学生による閲覧も可能となっています。なお、「まとめ」の冒頭では、自己点検・評価委員会委員長が、「刊行にあたって」として、結果概要に関する簡単なコメントをつけ、分析をしてこられました。従来、その構成は次のようになっていました。

- 1 「まとめ」の 刊行にあたって： 自己点検・評価委員会委員長
 - 2 設問一覧
 - 3 各種集計： キャンパス別、開講主体別集計、読み取り枚数別集計(科目数、平均値)
 - 4 全体結果報告： 教員別、設問別の平均値
 - 5 実施状況： 授業評価を各教員が実施したか否か、また各教員が報告書を提出したか否かを各キャンパス別、教員別に一覧。
 - 6 個別教員ごとの結果報告 原則として1頁に2件を表示しています。
- 次の要素からなります。

- ・教員名、科目名・科目コード、登録人数、休講回数など
- ・レーダーチャート

- ・「アンケート結果を踏まえた授業評価」： 各教員による報告

(参考) 2004年度の「まとめ」公刊時期及び分量

	春学期分(講義科目)	秋学期分(講義科目)
公刊時期	2004年11月	2005年4月
分量	223頁	277頁

回答結果の概観(2005年10月26日現在)

- ・ 実施率 名古屋 99.29%(417科目)、瀬戸100%(110科目)
- ・ 報告書提出率 名古屋97.86%、瀬戸100%。
- ・ 各設問評定値の平均 全項目で3.99(名古屋4.00、瀬戸3.96)、項目05から19までの平均値が4.09となっています。設問19(全体としての満足度)の平均値は、4.09(名古屋4.11、瀬戸4.00)となっています。今回の結果を簡単に要約してしまえば、「どちらかと言えば良い」レベルということです。

この結果は例年と比べて良いのか、悪いのか、気になるところです。しかし、既述のとおり、実施方式が今年度から変更されていますので、過去の数字と直接に比較することはできません。また、この種の平均値を読み取る場合、小さな数値上の変化に一喜一憂する必要はありません。毎学期、各教科で全く条件を同一にすることは難しいものです。(それでも参考までに見ておくと、2004年秋学期の数字(3.98)と比較してみると、ほぼ同じです。)

各キャンパス、「開講主体」(学部、学科等)、読み取り枚数ごとにながめると、少なからず数値上の差はみられます。たとえば、数理情報学部共通(10科目)が3.37と特に低いのが気になるところです。各学部、学科、委員会において、それぞれつつこんだ分析をお願いします。

設問ごとに見てみます。特に高い数値となっているものは、設問5(開始・終了時刻)の4.48、設問9(教員の声、音声機器の音)が同じく4.48、設問16(教員の姿勢に誠実さ・真剣さ)が4.45などです。特に、授業に取り組む教員の姿勢に対して比較的良い数字が出ていることは、何よりありがたいと思います。一方、設問3(予習・復習)が3.05で、全設問中で最も低い値です。(参考までに、前回2004年秋では、2.61でした。)

次に、設問8「授業内容を知る上で、シラバス(授業科目履修案内)の記載は役に立ちましたか」について述べます。この設問は、昨年度までは「授業内容はシラバスの記載内容と一致していましたか」となっていました。しかし、2004年度春学期における「まとめ」報告書冒頭の「刊行にあたって」では、このような質問の仕方に対して疑問が呈され、修正されたものです。2004年度における本設問の評定平

均値は、春学期では3.97、秋学期4.02でした。今回、表現が変更されて、3.43と数字がやや低くなっています。授業やシラバスが昨年と変わったというよりも、やや得点の取りにくい設問内容に変わったと考えられます。

今後の授業評価のあり方について

最後に、今後の授業評価の進め方について、簡単に述べます。

・実施方式は、今回のようなかたち（1教員1科目を選んで実施）がちょうどバランスが良いのではないかと。

・設問の妥当性について、本委員会としても再検討する必要がある。（過去の「まとめ」等でも提案がなされている通りである。）

・設問数を減らすことはできないか。多くの教科で同じ設問に回答する負担が、学生に生じていると考えられる。今後、授業評価を長続きさせるためには、設問の肥大化を避け、むしろ簡潔におこなう必要がある。

・3種別ごとに分けて行う方式から、種別分けをせずに行う方式に変更された。このことに伴い、設問が共通化された。このため、ややわかりにくい文章になった印象もある。

・設問の1から4までは学生自身の授業への参加に関する質問である。本当に必要なのか。

議論の途上ですので、以上はFD委員会で出された数々のご意見の紹介とお考えください。

授業改善に向けて、より有用な授業評価のあり方を、今後も模索していきたいと考えております。学生のみなさんと先生方の、引き続いてのご協力をお願いします。

以上